

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394800052		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリアおおくて		
所在地	愛知県豊明市大久伝町南58番地		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2394800052-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき『人間としての尊厳を損なわず、最後までその人らしいあり方』を実現する為に、家族や地域、そして職員も一緒に楽しみ支えあう場所を提供していきます。
年間行事は最も力を入れており、地域の子供達(児童館との交流)や学区行事、ホームでも、ご入居者が楽しめる行事を日々計画実行しています。もちろん、ゆったりの日びり出来る時間もご入居者の体調や気分に合わせて提供しています。
家族と共に支えあい幸せに暮らして行けるグループホームを目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体、管理者が変わり、利用者・家族の動揺や不安が懸念されたが、訪問当日のホームの雰囲気も良く、家族アンケートは、『不安な時も職員が良く話を聞き聞いてくれる』、『利用者の楽しむ事をやってくれる』、『職員の対応に満足』との称賛の声が多かった。家族・利用者にとって、『何の不安もない』ことこそ、法人の理念である『今までと変わらない安らかで心む暮らし』そのものの実践である。
ホーム内で『移動ブティック』を開催している。利用者の、『これにしようか？あっちが良い』等の楽しい会話があり、鏡を見て試着したり、購入したりと利用者の笑顔があふれていた。今後は利用者の社会参加の一つとなる様、近隣に向けての『移動ブティック』の定期開催を検討している。これを足掛かりに更なる地域との連携強化を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人としてその人らしく暮らしていくことを『基本理念』に掲げ、職員には入職時に配布・説明をすると共に、ホーム内にも掲示している。日頃は先輩職員の仕事ぶりから理念や目指すべきケアを学ぶ形で共有されており、各々でその実践を心掛けている。	法人理念『今までと変わらない安らかな心とむらび』を基に、ホーム理念『楽しく、ゆったり、のんびりと』を掲げている。経営母体が変わったにも関わらず、利用者は以前と変わらずのんびりと生活している。	利用者・職員の『楽しく、ゆったり、のんびり』実現のためにも、更なる取り組みとしてホームの具体的な活動目標(年度又は月次)を明確にする事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事への参加を通じて地域の方々にホームの事を知っていただけるよう努めている。町内会へ加入し、回覧板などで地域活動の情報を収集し地域行事に参加。また、運営推進会議には民生委員も出席し、防災訓練にも参加していただいた。地域の児童館より敬老会等に招待して頂き、子供と高齢者が交流し楽しい時間を過ごしている。	散歩の途中で地域の方々と挨拶を交わし、地域行事(納涼祭・盆踊り・秋祭り・花火等)に積極的に参加している。児童館より招待(敬老会・クリスマス会)を受け、子どもと利用者交流して楽しい一時を過ごしている。ホームの納涼祭・漫談ショーの際には手作りのチラシ配り、地域からの参加もある。	認知症ケアの関わり等について、地域の方々に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、地域福祉の拠点としての役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な取り組みは出来ていないが、地域行事への参加や、ホーム内で地域の方々も参加できるような行事を企画し、一緒に楽しみながらホームの様子を見ていただきホームを知っていただける機会を設けている。運営推進会議の際、民生委員や市役所関係者などもホーム内を自由に見学していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平日の開催が多くご家族の参加が困難なため、ご家族には議事録作成し、いつでも読んでいただけるよう玄関に設置している。毎月の通信にて、その案内を行っている。会議議事録は職員・ご家族にはもちろん市役所担当者にも議事録を提出している。	市の職員・民生委員・利用者・家族・管理者・法人担当者をメンバーとして、奇数月に開いている。行事報告・計画、ホーム状況等の説明、意見交換を行い、議事録は市役所に提出し、家族閲覧用に玄関に置いてある。	報告・意見交換に留まらず、具体的なホームの課題(一番身近な災害の際の地域の協力等)を話し合い、参加メンバーから多くの意見が出る、継続性のある会議運営を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者との連絡・相談は電話だけでなく、直接市役所に赴くようにしている。担当者には情報提供のほか、相談にも親身になって対応していただいている。その相談結果は、申し送りや回覧物、業務ミーティングで全職員に周知している。	市職員の運営推進会議への出席、介護相談員の受け入れによりホームの状況は市役所窓口によく理解されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間の戸締りのみで昼間は開錠し開放的な環境を整えている。各居室については職員側から施錠をすることはない。身体拘束のマニュアルを設置しいつでも閲覧できるようにしているほか、職員同士でも声を掛け合っている。	管理者・職員は共に身体拘束による弊害を熟知しており、夜間のみ防犯上の理由から玄関を施錠しているが、それ以外は開錠している。以前、転倒・骨折を繰り返す利用者へ、家族の同意の下でベッドに柵を使用した事はある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修など参加の意思はあるが、応募が多数の為参加できていない。ホームでは虐待防止のマニュアルを設置しいつでも閲覧できるようにしている。また、何気なく言った言葉が、ご利用者への虐待になりうる事もあるので、職員全員で言葉使いに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の研修と同じく研修会の参加の意思はあるが応募が多数の為参加できていない。以前はホームの勉強会等で学んでいたが、現在はそのような機会は持っていない。実際に家族の相談に応じ、成年後見制度を活用している利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込・面接・契約の各段階に応じて、利用者・家族からの話を伺い、説明を行っている。契約時には、利用者の状態変化に対するホームの対応可能な範囲を改めて説明するようにしている。解約については、家族との十分な話し合いの上で退去を決定し、契約に基づく手続を経て行われる。同意書等の書類を整備している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、利用者の声(言葉・表情・動作等)を傾聴し、日々のケアに反映させるよう努めている。介護相談員の派遣もあり、家族来所時やケアプランの説明時に意見や要望等を頂いている。相談・苦情受付を設置・紹介。	家族の来訪が多く、その際に家族の意見・意向を聞いたり、電話での状況説明もしている。家族から『居室の模様替え』の話が出て、利用者と共にレイアウト替えをした事もある。	『おおくて通信』に利用者個々の情報を『〇〇様の様子』として加え、アンケートで厳しい評価を受けた『外出支援』等について、家族の理解を得るための取り組みを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より出た意見・要望等を管理者が取りまとめ、その都度確認をしたり、2ヶ月に1回の法人内管理職の合同会議に議題として取り上げ、そこで話し合いをし、職員の意見を反映する体制がある。	管理者は、日常業務の中、月1回の職員会議等で、職員の意見・要望を聞いている。職員からは、『現法人に変わって、管理者にも話し易くなった』との声も聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外手当・職務手当・皆勤手当・資格手当等において常に働き甲斐のある職場を意識し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会が年2回あり、職員全員が参加出来るシステムを構築している。また外部勉強会にも出掛ける機会も設けている。事業所内でもテーマを決め勉強会を開催し職員の知識習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外への勉強会参加の機会を持ち、そこで知り合った同業者との交流の機会を得るように取り組みがなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接から本人の情報収集は大切にしており、そこで得た情報は全職員で共有し、入居時の不安やストレスを少しでも軽減させるよう努めている。入居直後は特に配慮し、本人の「それまで」と「今」を大切に、本人に寄り添っていけるよう努力している。必要に応じて、家族にも情報提供し協力を依頼している。毎月、おおくて通信を作成し、行事案内や利用者の状況を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際しての家族の葛藤等にも配慮するよう努めている。入居後も家族に安心して頂けるよう、また家族自身にもホームに慣れて頂けるよう、電話や手紙で本人の様子をごまめに報告する等、連絡を密に取るよう心がけている。家族から、意見・要望があった場合には、積極的に取り組むようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が抱えている不安や困っていること等生活状況を確認しながら、ホームとして、今できることを考え、提案・支援している。また、必要に応じた他サービスを提案する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持って接しており、ご利用者から多くの事を学ぶ場面もある。食器拭きや洗濯物たたみ、掃除等をご利用者と共同で行うなどし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご利用者の状態報告を行うと共に、要望等も聞いている。またご家族とご利用者双方の事情を考慮し、より良い関係が築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の来訪は、ホーム全体で歓迎している。来訪時には、ゆっくりくつろいだり楽しい一時を過ごして頂けるよう、お茶出し等雰囲気作りにも配慮している。友人・知人の方にも気軽に来て頂けるよう、家族を通じて伝えて頂いている。氏神様参り等、本人の心身機能の変化に応じて家族と相談しながら支援している。	知人・友人の来訪には、ゆっくり寛いで貰える様に、大切なお客様としてホーム全体で気づかっている。信心深い利用者の氏神様詣りやお地蔵さん詣り等、生活習慣を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立やトラブル回避も含めて、関係作りを支援。職員は、極力パイプ役やサポート役に徹するよう心がけ、利用者同士の関わり合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も職員がお見舞いや面会に行ったり、必要があれば退去されたご家族の相談にも快く応じている。また、職員間で、退去された方の思い出話もしばしば聞かれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から、また家族からの話(情報)から、本人の思いや希望等を感じ取り、見つけ出し、把握するようにしている。利用者からの自発的な表出が難しい場合には、職員側からのさまざまなアプローチを通して把握する等、一人ひとりに合わせてその方法を工夫している。	日常支援の中で思いを呼び起こし『ハワイ・中国に行きたい』利用者には、地図で行きたい地域を確認しながら、喜びを共有している。昔の仕事の話は記憶に残っており、豊明や刈谷の話は良く出てくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接での情報収集、家族に作成して頂く情報提供書を基に把握している。また、利用者本人との会話や写真、家族からの思い出話から得ることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を『介護記録』や各種チェック表に記録し、全職員が把握、情報の共有ができるようになっている。また、定期的な看護師による健康チェックや、2回/月の訪問診療で、医学的にも心身状態を観察し、把握するようにしている。4ヶ月毎にケアプランのモニタリングを行い、定期的に状態をアセスメントし直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は全職員で検討し作成。毎日の様子観察や本人との会話から得た生活上での課題や希望、家族からの意見や要望を反映させ本人主体の介護計画を心がけている。また、主治医や看護師、歯科医師とも連携した介護計画になっており、定期及び必要時の見直しを実施。	介護計画は、利用者・家族の要望や思いを日常支援に活かし、具体的に作成している。日常の記録も分かりやすく表記され、家族アンケート『介護計画』の項は、回答者全員が満足との高い評価を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『介護記録』に、利用者一人ひとりの体調や出来事、様子等を具体的に記録し、その状態に合わせて必要なチェック表を活用。介護計画の実施状況を『個別ケア表』で毎日チェックし、それを活用しながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の訪問診療や急変時の対応、看護師による日々の健康管理等、医療面でもある程度柔軟に対応できている。利用者の状態や家族の状況に合わせて、病院受診の付き添いも臨機応変に対応。また、利用者と家族が安心して帰省や外泊できるよう、情報の提供・交換や急なホーム帰所受け入れ等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察へ、利用者の行方不明時に協力して頂けるようお願いしてある。地域行事の際は民生委員のご配慮により、特別に席を設けていただき安全に参加しやすい形となっている。また、毎月 介護相談員の訪問も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	山内外科が全利用者のかかりつけ医となっており、訪問診療の他、急変時等にも柔軟に対応して頂いている。協力医とは、コミュニケーション及び利用者についての情報交換を密に図っている。また、おおくて通信を活用し、現状を家族に報告している。	ホーム協力医が全利用者のかかりつけ医で、月2回の往診がある。専門医への受診は原則家族対応であるが、受診時の情報提供、家族からの受診報告によって家族との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の様子・状態を詳細まで報告し、指示を仰いでいる。看護師は、利用者の健康管理や職員への助言の他、協力医や医療機関との連携を行っている。24時間オンコール体制をとっており、急変時にも対応可。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、本人への面会はもちろん、家族や病院の医師・看護師・相談員と連絡を密に取り合い、本人と家族にとって一番いい選択ができるような支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者を中心に、家族・主治医・介護職員・看護師と話し合いを重ね、本人が結論を出せるよう支え、その意向に沿う形で方針を決めていき、支援していくよう努めている。また、入居時に『看取りに関する指針』を説明し、同意を得ている。	管理者は、利用者や家族の意向があれば、終末期支援を行なう方針である。利用者や家族の意向を踏まえ、協力医と連携を図りながら家族に随時確認を取って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の怪我や事故等についての対応は、全職員が行えるよう説明・指導されている。消防署の取り組みにも積極的に参加している。事故対応・急変時対応マニュアルを設置し、いつでも閲覧できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が『消防計画』を策定し、2回/年 防災訓練を実施。町内会の方には、災害時の協力を依頼している。非常持出品の管理・備蓄も平日より整備している。また、2011年にオール電化工事を行い、より安全なホームとなっている。	年2回夜間想定訓練を実施している(1回は消防立ち合い)。利用者の避難、通報、消火訓練を実施している。玄間での全員避難に5～6分要した。消防から『今年は初めてのなにより上手く出来た』との評価を得た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や職員との関係性に配慮した対応に努めている。他職員のケアや対応を通して、自身の対応について省みることも多く、それについて職員間で話し合っている場面も見られる。利用者の他室への無断入室についてもその都度適切な対応を心がけている。	人生の先輩として尊敬の意を忘れず、丁寧な言葉掛けを心がけ、入浴・排泄介助時は羞恥心の面からドアを閉める等の配慮がある。利用者に関する職員同士の会話の際、部屋番号を使って秘匿性を担保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けや場面作りを行い、利用者自身の意思を表出していただけるよう努めている。選択肢の提示の仕方の工夫や動作や表情によるコミュニケーション等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等の大まかな日課以外の過ごし方は、その日の天気や体調、気分に合わせて決めている。職員は、日々の会話や家族からの話から利用者の生活歴や関心、嗜好を把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容に来ていただいている。カットや毛染め、顔そりなど利用者の意向を聞きながら支援している。また入浴後の着替えの準備は、お手伝いしたり、ご自身で行って頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者委託だが、家庭料理の雰囲気を残し、温め・焼く・揚げる等の行程は、施設で対応。盛り付けにも配慮し楽しめるような雰囲気作りに心掛けている。後片付けは、食器拭き当を職員と一緒にして頂いています。	職員も同じテーブルで食事を摂り、会話の弾んだ家庭的で楽しい雰囲気である。食事場面で利用者は『力量・希望』に応じ、トレイ並べ、名札・箸セット、お茶入れ、配・下膳、テーブル拭き等、様々な役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量(全利用者)・水分摂取量(必要に応じて)を把握し、記録している。個々の心身の状態やその日の体調に合わせて、食べやすい大きさに刻んだり、粥にしたりする等工夫している。声掛け等の介助や食器にも配慮し、健康的な摂取量を確保できるよう心がけている。毎月1回、体重測定も実施し、主治医に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた介助及び、適した口腔ケア用品を使って頂き、毎食後の歯磨き・うがいの励行を行っている。毎週、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、生活の質や自尊心、羞恥心に配慮して支援している。また、排泄用品を使用する場合、その方の排泄に合ったものを使用できるように職員間で検討している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者個々に合わせた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様に支援している。排泄介助や声かけについては、不快な思いをしない様に羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘の早期発見と適切な対応を行っている。食事・水分・運動量を把握し、自然排便が困難な方は服薬による排便コントロールを行っている。排便のコントロールは医師の指示の元、行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と入る時間帯はホームの日課の中で決められているが、設定された時間帯の中では、極力、本人の希望に合わせて入浴して頂けるよう努めている。安心して入浴して頂けるよう安全整備を行い、羞恥心へ配慮し個人浴を行っている。入居者からは『おおくて温泉』と呼ばれ、入浴剤を使用し楽しんでいただけるよう工夫している。	利用者の半数ずつゆっくり支援しているため、入浴は週3回となっている。入浴剤を使用し、柚子・菖蒲湯等の季節を味わう季節風呂の実施もある。温度差のない温度バリエーションにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に安眠できるよう、日中活動的に過ごせるよう努めている。朝の起床は、個々の生活習慣に合わせて、声掛けや介助を行っている。日中も体調等に合わせ、適宜休んで頂くようにしており、自室以外にも休むことのできる場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に処方箋効能書のファイリングや受診した場合は、報告書を作成し全職員が状態把握できるように整備してある。症状の変化なども看護師に相談したり、訪問診療の際主治医や薬剤師に相談できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職歴、そして、現在の生活から、本人の好みや関心、得意不得意を把握し、それを活かした役割や趣味活動(散歩・塗り絵・裁縫・歌等)等につなげている。その役割や趣味活動を日々の生活の中で自然な形で継続していけるよう支援していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて、極力、散歩に出る機会を設けている。入居者はご家族と共に外出し外食や外泊をする方もいる。	日常的に近隣一周、お地藏さん、堤防、喫茶店(車椅子の利用者が多く、数回に分けて実施)等に出かけている。季節の花を求めて、桜やコスモスを見に行き、遠出としては浜名湖日帰り旅行を行った。	家族アンケートで厳しい評価を受けた項目である。家族の望む外出支援と家族の現状認識にズレを感じる。10項で述べた『おおくて通信』と関連しての検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本現金の預かり管理は施設としてしていないが、本人や家族と相談して、おこずかい程度は自己管理されている利用者もいる。また、ときには買物の際に、支払は利用者に行きたく場面作りもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる家族と葉書のやりとりをしている利用者もいる。家族からの電話は本人に取り継ぎ、自由に話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が一間続きとなっており、食事準備の音や香りが自然と広がっている。壁には、利用者の作品や手作りの日めくりカレンダーが飾られている。窓から見える田園風景は、季節感を感じさせると共に昔を思い出させることもあるようである。菖蒲湯や柚子湯も利用者には好評である。	採光・照明・空調・音とも適切に管理され、台所と一間続きのリビングには、食事準備の音・香りが漂っている。職員と共に作成した作品や写真が壁に貼られ、リビングの片隅には畳のスペースがある。窓からの田園風景は、季節の移り替わりも良く感じとれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「くつろぎコーナー」と称される一角があり、お一人で一服される姿が見られる。居間の畳コーナーでは、昼寝をされたりおしゃべりされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの装飾品、家族の写真がおかれており、一人ひとりの居室に個性が表れている。塗り絵等のご自身の作品を飾ったりされている方もいる。	使い慣れた筆筒・テレビ・連れ合いの遺影等、本人の大切にしていた品々をそろえた居室、馴染みの装飾品・家族の写真が飾られた居室等、一人ひとりの個性溢れる居室は、利用者の生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等には分かりやすいように表示をしたり、本人の状態に合わせて自室に表札を設置したりしている。また、ベッドに介助バーを設置したり家具の配置を工夫したり、安全と自立の両面からの環境作りを心がけている。ホーム内の設備や備品の定期的な安全点検を行っている。		